

アイスクリームが脳に与える悪影響について

石原 和音[†]

本論は、アイスクリームが与える悪影響について述べる。まず、アイスクリームが感情に与える影響について分析し、アイスクリームの悪影響を示す。またその潜在的な危険性について更に言及し、注意を促すものである。

アイスクリームに関する既存の研究

冷凍庫の普及によって、アイスクリームというものがこの世には存在することは広く知られるようになった。しかし、アイスクリームが人体に与える影響は過大に評価され、アイスクリームの負の側面というものは検討されてこなかった。これは何故であろうか。

既存の有名な研究に、「おとぎ話の王子でも 昔はとても食べられない…舌に乗せると トロントロ…アイスクリームは 楽しいね」(服部公一・さとうよしみ『アイスクリームのうた』おかあさんといっしょ 1962年)とある。このように、既存の研究では、アイスクリームに関する正の側面が強調され、「楽しい」と断定されてきた。しかし、これらに代表される研究では、実験を伴わず、その論拠が薄弱であると言わざるを得ない。

調査方法

本研究では、アイスクリームを摂取した際のヒトへの影響、特に脳組織における影響を定量的に分析し、その摂取による影響を調べた。

具体的な調査対象・調査方法はこのようなものである。

まず、調査の対象とするアイスクリームには、代表的なアイスクリームとして知られる「pino」を選択した。これは、第1に、「pino」がアイスクリームの中で多数を占める「バニラ・フレーバ」に属すること、第2に、チョコレート被膜性であることにより、「バニラ・フレーバ」のみに偏らない調査が可能となること、第3に、その個体数が非常に多いことから、信頼性の高い統計的分析に必要な多数の試行を実現することが容易であること、などが理由である。

次に、アイスクリームを摂取させる種としてカズト(学名 *K.ishihara*)を選んだ。これは、*K.ishihara* がヒト(学名 *Homo sapiens*)の一種であること、糖類を比較的好む種であり、アイスクリームを経口摂取させることが容易であること、また、単為生殖であると同時に増殖の速度が比較的速く、遺伝的に同一な個体を十分多数得やすいこと、などが理由である。

調査の方法としては、*K.ishihara* に定期的に pino を与え、その脳組織における影響を AA 脳反応測定法によって継時的に計測する、という方法を用いた。AA 脳反応測定法(AA 感情測定法とも呼ばれる)とは、*K.ishihara* の個体にキーボードを与えたときの、「キタ-----[o∇o]-----!!」の長さ、およびエクスクラメーションマークの数を継時的に計測することにより、個体の脳内の反応を同定する方法である。AA 脳反応測定法が、*Homo sapiens* の脳内の反応を測定することに適していることは、既存の多くの研究^{1,2}によって明らかにされているので、詳細についてはそれらを参照されたい。

[†] 慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科 学部4年

1. 西村博之, 1999, 「2ちゃんねる」

2. 織田裕二, 199x, 「キターー！」『サンテ FX』参天製薬

データ

試行によって得られたデータの一部を示す。



。[o_o]。ドキドキ



。[o_o]。ドキドキ

[ooo]もぐもぐもふもふ



キタ—————[o∇o]—————!!!!!!!!!!!!

[O∇O]ウママママママ



[ooo]もぐもぐ

キタ—————[o∇o]—————!!!

[O∇O]ウママママ



キタ—————[o∇o]—————!!!



キタ-----[o∇o]-----!!



あと1個・・・[‘o_o`]

[ooo]もふ



ふー食ったー

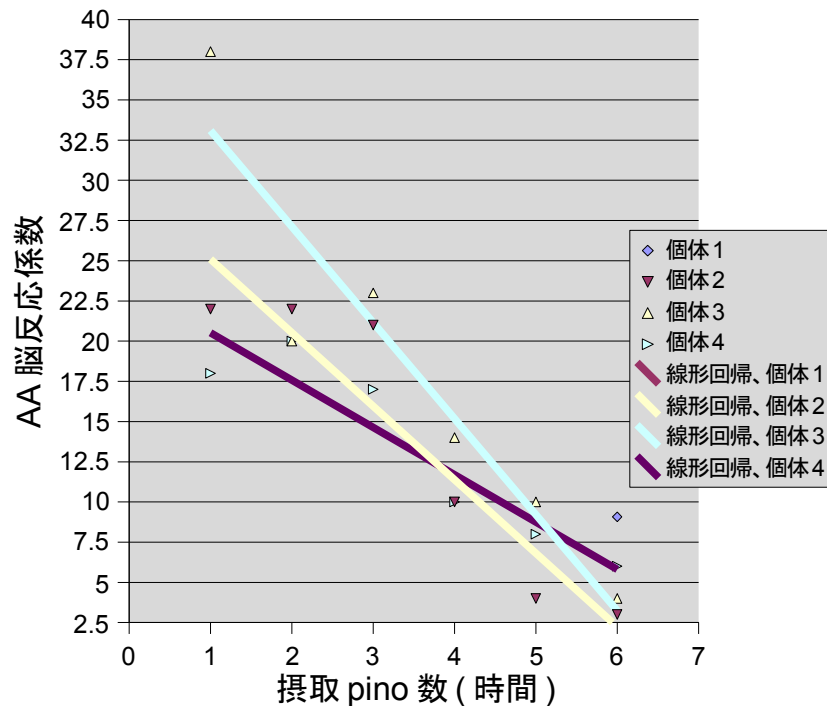
[‘o_o`]ショボーン……



[‘o_o`]……

分析

全データの統計をとると以下ようになった。



これは明らかに負の相関を示している。

このデータと分析から、アイスクリームの摂取は *Homo sapiens* の精神状態に悪影響を及ぼすことは明らかとなった。

さらなる危険性

近年の研究によって、アイスクリームには身体依存性がある可能性が指摘されている。特に、冬季の気温が下がった状態において、こたつの中やストーブの前でアイスクリームを食べる行為が最も依存性があるのではないかと指摘する調査もある。

このように、アイスクリームは、依存性と脳に対する非常に大きな悪影響を併せ持つ非常に危険な物質である。さらなる悪影響を与えるメカニズムについてはさらなる研究が必要であるが、メカニズムは明らかでないものの悪影響が大きいことは既に明白であり、予防の観点からも早急にアイスクリームの普及を阻止し、社会に警鐘を鳴らすことが必要であると思われる。